

子宮内膜症と各種疾患(1)

子宮内膜症と悪性腫瘍

小林 浩* / 河原 直紀 / 山田 有紀
新納 恵美子 / 吉元 千陽

Summary

子宮内膜症は性成熟期婦人の約10%に発生する慢性、持続炎症性疾患であり、月経血の逆流による正所内膜組織の腹膜への接着・増殖・進展がその病因の1つと考えられている。臨床的には月経困難症、不妊症、あるいは内膜症関連卵巣癌への進展を起こす最もQOLの低下を招く疾患である。本稿では、子宮内膜症と関連する悪性腫瘍に関して今までに解明された発癌機序と今後の展望について概説する。

Key words

子宮内膜症
悪性腫瘍
1型卵巣癌

はじめに

ライフスタイルの変化や平均寿命の延長に伴い、現代女性が生涯に経験する月経の回数は大幅に増加した。このようにエストロゲンに曝露される期間や回数が増えたことが、女性特有の疾患である子宮内膜症や乳癌などが増加している要因である。子宮内膜症は生活習慣病である糖尿病や高血圧症と同様、複数の遺伝的・エピジェネティック要因と環境要因によって引き起こされる多因子が関連した疾患である。子宮内膜症の疾患感受性遺伝子の探索が現在も精力的に行われている。一方、すべての女性が月経血逆流を経験するが、なぜ90%以上の女性は子宮内膜症にならないのだろうか。疾患感受性遺伝子のみでは解明できないことも事実であり、免疫の関与も検討されている¹⁾。

今までに内膜症と関連する疾患として報告されているのは、過敏性大腸炎、片頭痛、骨盤炎症性疾患、肥満、慢性肝疾患、慢性腎疾患、関節リウマチ、糖尿病、心血管疾患、高血圧、脂質異常症、周産期合併症、卵巣癌、乳癌、子宮体癌、大腸直腸癌、非ホジキンリンパ腫などであり²⁾⁻⁶⁾、子宮内膜症は一生涯にわたってケアが必要な疾患として捉える必要がある。

卵巣癌のタイプ

上皮性卵巣癌は大きく1型と2型に分類され、1型には明細胞癌、類内膜癌、粘液性癌な

Hiroshi Kobayashi, Naoki Kawahara, Yuki Yamada,
Emiko Niiro, Chiharu Yoshimoto
奈良県立医科大学産婦人科, 教授*